



## 『源氏物語』と作家たち

期間/2024年2月6日（火）～4月7日（日）

平安時代に描かれた『源氏物語』は、女性の手による世界最古の長編小説であり、日本文学の最高傑作といわれています。作者の紫式部は、越前国司の父・藤原為時にともない、現在の越前市を訪れ、約1年半をこの地で過ごしました。

2024年1月7日より放送が始まったNHK大河ドラマ「光る君へ」は、紫式部を主人公にしたものです。紫式部が注目される今、福井とゆかりの深い紫式部が描いた『源氏物語』を取り上げます。

『源氏物語』はこれまで多くの作家や研究者によって、現代語訳がなされてきました。そこには、「源氏物語」に魅了された作家たちの、独自の観点や解釈が含まれています。

本展では、与謝野晶子や、谷崎潤一郎、円地文子、田辺聖子、瀬戸内寂聴、角田光代といった、現代語訳に挑んだ作家たちを紹介し、また、福井ゆかりの作家が書いた「源氏物語」に関する評論やエッセイもあわせて展示します。

### <展示資料>

項番	作家名	種別	資料名	発行年	発行者
1	俵万智	書籍	『愛する源氏物語』	2003年	文藝春秋
2	俵万智	書籍	『りんごの涙』	1989年	文藝春秋
3	-	写真パネル	紫式部公園	-	-
4	山川登美子	書籍	『山川登美子全集 下巻』	1994年	文泉堂出版
5	与謝野晶子訳	書籍	『新訳源氏物語』 底本:1929年河野成光館刊行再版二冊本	2001年	角川書店
6	谷崎潤一郎訳	書籍	『源氏物語 巻一』	1939年	中央公論社
7	谷崎潤一郎訳	書籍	『新々訳源氏物語 巻一』	1964年	中央公論社
8	円地文子訳	書籍	『源氏物語 巻一』	1972年	新潮社
9	田辺聖子訳	書籍	『新源氏物語(一)』	1978年	新潮社
10	瀬戸内寂聴訳	書籍	『源氏物語 巻一』	1996年	講談社
11	角田光代訳	書籍	『源氏物語 1』(河出文庫) 底本:『池澤夏樹個人編集 日本文学全集04』	2023年	河出書房新社
12	大和和紀	書籍	『あさきゆめみし 1』	1980年	講談社

